

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501392
法人名	株式会社 光生ビル
事業所名	グループホーム光生園 (ユニット名 1)
所在地	福岡県北九州市小倉南区葛原高松2丁目14-12
自己評価作成日	平成23年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地内には10数本の桜の大木があり桜の花の時期は見事な光景になる。梅・みかん・びわ・栗などの果樹園・菜園もあり収穫が楽しみである。居室やキッチン・リビングは明るく、様々な空間から緑を目にすることができ、利用者が安心して過ごすことができる居場所作りを目指している。自然環境を活かした散策やレクリエーションなどで四季を感じ取れるような活動も大事にしている。今年もまた利用者の希望で全員参加の一泊温泉旅行を計画予定である。また、「田舎に帰ってみたい 今どうなってるだろうか」など利用者からの声もあり、今年には利用者一人ひとりのルーツを訪ねる旅を(思い出の地 行きたいところなど)実現したいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者は、山の裾野の閑静な住宅街をのほりつめたところに位置している。広大な敷地に果樹園・菜園・1ユニットのグループホームがあり、ゆったりした空間が広がっている。ケアも“ゆっくりケア”をモットーとし、介護が業務にならないよう、利用者の傍でいすに座ってゆっくりすることもケアであるというスタンスで、利用者のニーズに応じたケアがなされている。利用者も温かい雰囲気の中で落ち着かれており、表情が豊かである。設置者の食事のこだわりから、食材にこだわりをもっている。その日の天候や利用者の希望でお弁当を作って頻繁にドライブや交通機関を利用して出かけており、利用者はその時その時を楽しみ、職員は利用者のケア・利用者の楽しむ姿に喜びを感じている。今後、認知症ケアの事業所として、更に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が光生園の理念を理解し、理念が日々利用者へのケアに反映できているか、ミーティングなどで話し合い確認し合っている。	平成18年に地域密着型サービスになった時に見直しと追加修正し、その後、1年に1回見直しをしている。採用時はもとより、日々のケアからの指導・話し合いで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町内会に加入しており本年3月まで1年間、当園の園長が自治会の組長を引き受け地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んだ。	地域に高齢者が多いことから、昨年度、事業所の代表者が隣組長を担当した。回覧板、地域の草取り、街灯の取り換え等、組長任務の中で、近所の人から花が咲くと頂いたり、地域の行事に声をかけてもらったり、必要時広い駐車場を貸すこと等があり、地域との交流が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの専門性、実践力を活かし、地域住民からの相談にのったり介護保険制度などについてのアドバイスなどを随時行っている。地域の方を中心に認知症サポーターの養成講座をするように企画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では当園での取り組みや具体的な課題などを話し合い、参加メンバーから積極的な意見や助言等を頂きサービスに活かしている。園からの一方的な報告で終わるのではなく双方向的な会議になるよう配慮している。	利用者・家族・地域包括支援センターの参加を得て開催している。運営体制・利用者の状況・実習生の受け入れ・熱中症・感染症・事故とヒヤリハット・防火訓練・地域とのかかわり等報告するとともに、意見を聞き、サービス向上に活かしている。	当初からすると、開催日がずれてきているようだが、求められている開催数が年6回以上となっているので、今一度、検討と調整が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関する手続きや運営に関する事など市町村担当者に相談することが多い。気軽に相談でき、特に包括支援センターの職員とは、利用者の情報交換などいい連携がとれ有難い。	地域包括支援センターとの連携はしっかりとれている。事業所からの相談・悩みだけでなく、地域包括支援センターの困っていることに対しても一緒に解決に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの理解と実践について全職員が共有理解を持つように、研修会に参加したり職場内で勉強会を行っている。	日中は施錠せず、いつも自由に出入りできる状態である。外部研修受講者は必ず内部伝達研修を行っている。職員は身体拘束禁止については敏感で、言葉による抑制にも意識を高くもっている。ベッドからの転落察知センサーを1人利用しているが、それによって抑制することはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための研修会に参加したり職場内での勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止関連法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解するために職員全員に研修の機会が与えられている。必要と考えられる利用者がある場合、社会福祉協議会などに相談し活用できるように支援している。現在2名が利用している。	本人・家族との契約時に権利擁護について説明を行っているが、知っている方も多い。知らない方には、家族会や家族の訪問時にも説明している。市の「権利擁護マップ」をいつでも見ることができるよう設置している。権利擁護の外部研修参加者は、伝達研修を行い、職員全体で学ぶ取り組みを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に利用者・家族に十分な時間をとって説明している。利用料金や契約内容などが変わった場合にはその都度説明をしている。利用者や家族の不安や疑問点などいつでも気安く相談に応じられるように配慮している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで利用者や家族などの意見、要望を聞く機会がある。また、面会時や行事などに参加された機会にも積極的に問いかけ。出された意見や要望などはすぐに取り上げ運営に反映している。	2～3カ月に1回、利用者自治会を開催し、会長（級長さん）を中心に話し合いをしている。行きたいところや食べたいもの等、利用者の希望を反映している。温泉や博多に行くこともある。家族から言いやすい雰囲気があり、また、事業所は出された意見を運営に反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やミーティング等で職員の意見を聞くようにしている。また、気づいた事があればその都度言えるように日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり聞き出ししたりしている。意見や提案は話し合い運営に反映している。	代表者は、日頃から話しやすい、お互いに言いあえる雰囲気を作っている。職員からの意見や提案には向き合って絶えず話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように、やりたいことや研修、資格取得などに向けた支援をしている。また、子育て中の職員や健康上の問題で夜勤免除など個々に応じた条件も勤務表に配慮し、職員達が働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたり、性別や年齢制限等はしていない。現在65歳以上の職員が3名いるが経験が豊富でその能力を発揮して生き生きと働き若い職員たちの刺激になっている。	代表者は、採用にあたって年齢・性別を理由に採用対象から外すことはなく、現在、60歳以上の方が3人勤務している。また、採用時に職員の意見を聞いている。休憩時間の確保、資格取得に向けての勤務調整が配慮されている。職員は折り紙・音楽・料理等の得意とすることを発揮し、生き生きと勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の尊重について全職員が意識を持つよう研修会への参加や勉強会などを行っている。言葉遣いや態度など不適切な対応があればその都度指摘し、人権問題について話し合うようにしている。	研修には力を入れており、案内があった外部研修には、殆んど勤務として参加している。研修には人権尊重に関することも多く、職員の意識は高い。日々のケアの中からも取り上げて話し合い、徹底して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の一ひとり一人の段階に応じた研修計画を立てている。できるだけ多くの職員が研修を受けられるようにしている。また、受けた研修は報告書または勉強会によって伝達し、全職員が共有できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会が1～2カ月に1回あり、できるだけ参加するようにしている。交流の中で他グループホームの取り組みや課題など参考になることが多く、得た情報をケアに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との初期の面談で違和感や威圧感を感じさせず何でも相談できる環境作りに努めている。本人の思いや不安を受け止め何が必要なのか本人としっかり向き合っ話をして聞きながら心にかけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものは何か不安や心情を理解し、当園としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。家族の苦労や今までの経緯などじっくり聞き、何でも安心して相談できるように最初の関わりを大切にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の能力や心身の状況、今置かれている環境に応じ利用者や家族が望むサービスが受けられるよう調整している。場合によっては他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩である利用者洗濯物の干し方や調理の仕方や方法など学ぶことが多く、職員にとって良い学びになっている。それぞれ得意分野で力を発揮してもらい、お互いが協働しながら共に過ごし合える関係作りを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気づくりを常に考えている。家族の面会が多く、日々の暮らしを見ていただき情報交換も密に行っている。本人と共に支えあう家族との関係は不可欠であり、より良い関係が築けるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類、友達や近所の人たちが自由に面会に来れるように雰囲気づくりを大切にしている。散歩や回覧版を届ける際に近所の方と会話をされたり声をかけるなど馴染みの関係が途切れないように支援している。	近所の馴染みの家に遊びに行ったり、友人が食事に誘ってくれたり、家族と墓参りに行く等、馴染みの人たちとのつながりを大切に支援している。今年度は、利用者一人ひとり行きたいところへ、その人のルーツを訪ねることを目標にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがうまくとれない利用者には職員が間に入り、他の利用者とのコミュニケーションが図れる機会が増えるよう職員が調整役となって支援している。また、レクリエーション活動を通じて利用者全員が楽しめる機会をつくらせている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が必要になり退居された利用者に対し、病院との情報交換をしたり、馴染みの職員が再三面会に行くなど、本人や家族の精神面でのサポートをするようにしている。退居後も時々電話をし様子を聞いたり相談に応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わりの中から、暮らし方の希望 意向を聞き出し把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。本人にとってどのように暮らすことが最良なのかを検討しケアプランに反映している	契約時に本人や家族から、また、日々のケアの中でどのように暮らしたいのかを十分に聞き取り把握している。センター方式アセスメントシートの一部を活用し、全職員で情報を共有し、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式や独自のアセスメントを用い、ひとり一人の利用者の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝利用者のバイタルサインをチェックし、健康状態や生活のリズムなどを把握している。その人のできることで、わかる力を生活の中で発見し、日勤・夜勤帯に生活状態を記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。プランに沿って毎日ケアをチェックし、毎月モニタリングをしている。計画やモニタリングなど職員全員や家族、必要な関係者も含み話し合いを行っている。	一人の職員が2~3名の利用者の担当制にしているが、日常は全職員が利用者一つの大家族であるとの意識で見守っている。介護計画作成時は一人ひとりの利用者のケアについて全員で検討し、関係者の意見、家族の意見や意向を聞きながら介護支援専門員が作成し、毎月見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを作り毎日バイタルサインや食事、排泄状態や精神面、生活状態を記録し、すべての職員が情報を共有し、確認するようにしている。個別記録をもとに介護計画の見直し・評価を実施している。ケアプランに沿った介護記録を検討中		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の基本的サービスはあらかじめ決めておくが、本人や家族の状況により柔軟に対応している。(デイサービスの送迎や予定日以外のサービスの受け入れ 延長サービスなど)		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で利用者が安心して暮らしを続けられるよう、町内へ加入し、自治会の組長を引き寄せた。民生委員や福祉協力委員、包括支援センター職員たちとの関係が強化され、情報交換や協力関係が得られるようになった。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院から月に1~2回訪問診療に来てもらっているが、本人や家族の希望するかかりつけ医や医療機関があれば受診できるように支援している。受診時は職員が付き添い必要な場合家族も同行し、普段の状態や変化を伝えている。	かかりつけ医について利用者・家族の希望を大切にしている。在宅時からのかかりつけ医への受診にも職員が同行し、結果を家族に報告している。歯科医(協力医)の訪問診療では毎月1回全員が受診している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援ができるようにしている。毎朝バイタルサインのチェックをし、体調や変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化があればすぐに看護師に報告し適切な医療につなげている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心身のダメージを極力防ぐために病院関係者との情報交換に努め、園での対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう話し合っている。安心して治療できるように職員達ができるだけ面会に行きいい関係が維持できるように支援。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向調査をし重度化した場合本人・家族に園でできること・できないことを話し、意志確認書を作成。医師・職員が連携を密にし園でできる最大限の努力をしている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるように支援している。	契約時に重度化や終末期について説明と話し合いの上、同意を得ている。これまでに4名の看取りを行っている。施設長を含め2名の看護職員が勤務しており、緊急時には医療機関とも連携をとりながら、夜間でも施設長が駆けつけ看ている。家族の宿泊も可能であるが、疲れ過ぎないように夜間は別室を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や蘇生術の研修会に参加し、技術を習得している。急変時の対応や連絡方法についてマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上防災学習会や防災訓練を実施している。地域の協力体制について自治会をお願いしている。消火器や防災器具の設備点検も定期的に行っている。	消防署員の指導の下、年2回は昼夜を想定して避難誘導訓練を行っている。当日は消防車も配置されている。備蓄としては飲み水・乾パン等を3日分程度準備している。居室の入り口には「車いす利用者」「手引き歩行」と非常時に備えた表示がなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の誇りを尊重し、プライバシーの保護に対し十分気をつけている。利用者への言葉かけやケアが馴れ合いになり利用者を傷つけないように配慮している。職員同士気づいたらその場で注意し合うようにしている。	失禁時等は周囲に気づかれないような声掛けを工夫している。家族同様の意識の中でも、高齢者への尊厳が保持されるように配慮している。個人記録等は棚に保管し、カーテンで仕切られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけをし、意思表示が困難な方には表情やサインなど、読み取り本人が決められるように配慮している。自分の生まれ育った博多に行ってみたいと希望された利用者に対し実現に向けて検討中である。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その時の体調や状況などひとり一人のペースを大切にしている。部屋で過ごされたり、テレビを観たり新聞を読んだり、外出を希望された場合にはドライブに誘ったりその日を自由に過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝っている。自己決定できない人には職員と一緒に考えて支援している。2か月毎に訪問理美容に来て頂き自分の好きなヘアスタイルやパーマをかけてもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回ではないが利用者の意見を聞きメニューを作ることもある。盛り付けや配膳 食器洗いなど利用者と一緒にし、職員と利用者が同じものを食べている。旬の食材を使い園で採れた野菜など季節感を感じて頂いている。	美味しいものを皆で楽しく頂くために、菜園で利用者と一緒に栽培した物、和牛肉、無農薬食品の購入と食材にもこだわっている。週の5日は主に調理担当の職員が味や色彩を工夫した料理を提供している。利用者で漬物が得意な方、味付けに自信がある方や後片付けの得意な方等、皆で協力しながら食生活を楽しんでいる。職員と利用者が同じテーブルで同じ物を楽しく食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて献立を作っている。糖尿病や摂取量の少ない人、好き嫌い、かむ力が弱い、飲みこみが悪い人等、その日の体調や個々に応じた食事を提供している。毎回食事摂取量をチェックしている。水分は1日1ℓ以上飲んで頂いている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回口腔ケアをしている。月に1回歯科医の訪問診療を受け全員の口腔チェックを受けているがケアがいいと褒められている。利用者の状態に合わせて個別に働きかけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り個々の排泄パターンを把握するようにしている。入居後オムツがとれ自立した人も数人いる。失禁の多い人には自尊心を傷つけないように声かけをしているがなるべく自己決定を大切にしたい。	一人ひとりの24時間排泄パターンを把握して、個々にあった声掛けやトイレ誘導を行うことで、失禁が少なくなっている。オムツから紙パンツ、紙パンツから布パンツへと改善した方がいる。夜間のみ安眠できるように紙オムツを使用して、昼間はオムツはずしに取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとり一人の排泄パターンを理解し、できるだけ自然排便を促す工夫をしている。便秘対策として繊維の多い食事や水分補給、体操などに取り組んでいるが頑固な便秘の方がいて悩まされている。薬の服用も状態を見ながら調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度の割合で体調やタイミングに配慮しながら入浴をしていただいている。最初に入浴したい等の希望を聞きながら気持ちよく入浴できるように支援している	隔日の入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴可能である。拒否される方には声掛けを工夫して「体重を量りましょうか」「温泉に行こう」「ちょっとついてきてね」等と優しい声で誘導し、入浴に繋げている。浴槽では気持ちよさそうにゆったりと長く入浴が多い。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて休養を促したり自己判断で休まれている人もいる。就寝時間も早く休みたい人、それぞれの希望に沿って支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、飲み方をカルテに保管し、全職員にわかるようにしている。内容が変更になった場合全員に周知徹底するようにしている。ダブルチェックをし服薬ミスがないように努め。与薬チェック表に記載し確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの出来ること、得意なことを活かし調理洗い物洗濯などをして頂いたり外出、散歩などで気分転換を図ることでその人らしい時間を過ごして頂くよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるよう桜 あじさいなど観にドライブに行ったり、お弁当をみんなで作って出かけることもある。レストランや回転寿司など希望に沿って行くこともある。近所の家に遊びに行ったり家に帰ったり希望があれば勤めている。	屋間はゆとりの職員数であり、「〇〇に行きたい」との希望にも「では、おにぎりを作って皆で出かけよう」と即席弁当で出かけたりにしている。頻繁にドライブに出かけている。天気の良い日は広い敷地内を散歩したり、ウッドデッキで食事をしながら眼下に広がる景観を楽しんだりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て財布を所持し自分で管理している人もいる。外出の際、財布を持って行き、自分の好きな物を買って払うこともある。権利擁護センターを利用されている方もおり、本人の希望を聞くことで使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された場合は電話をし、家族とお話ができるように支援している。家族から定期的に電話がかかり、長電話を楽しまれることもある。年賀状や手紙など希望に沿って支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から桜や梅の木を見ることができ、季節の移り変わりを感じ居心地よく過ごすことができる。自然に囲まれ静かなため穏やかに過ごすことができる。空気清浄器や消臭剤など定期的に交換している。	平屋のホームは大きな1軒家を思わせ、リビングも広く、トイレや洗面台も3台連続していたり使い勝手が良い。調理場も開放的で利用者が自由に利用できている。ホーム内は清潔で明るく快適な空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関ホール、食堂などでテレビを観たり本を読んだり会話をしたり思い思いに過ごして頂いている。利用者同士の関係なども考慮し、座る場所を配慮したり居心地の良い環境づくりに心がけている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者・家族と相談し、使い慣れた家具や写真、思い出の品などが持ち込み落ち着いて過ごせるよう配慮している。中には仏壇を持ち込み朝夕お参りしている者もいる。	ベッドの持ち込みは自由であり、希望があれば貸与も可能である。居室には観音開きのクローゼットの備えがある。鏡台、整理ダンス、テレビ、仏壇等、在宅時からの馴染みの家具が持ち込まれ、壁には家族の写真や壁掛け等があり、一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせ環境整備をしている。居室 トイレなどに貼り紙をする等視覚に訴えることで混乱のないよう配慮している。手すりなどの設置により安全で自立した生活が送れるようにしている。		